

全国知事会 第28回新型コロナウイルス緊急対策本部会議
蒲島熊本県知事コメント

まず、本県の状況について、本県の第5波における新規感染者数はピークアウトし、減少傾向が見られていますが、依然としてステージ4の水準にあります。

このような中、本県も「まん延防止等重点措置」の延長を受けました。

まずは、現在講じている対策を全て継続し、収束に向けて、徹底的に感染を抑え込むことに、全力を尽くします。

本日は、2点発言いたします。

1点目は、ワクチンのブースター接種、特に医療従事者への接種についてです。

ブースター接種については、来週には専門家による議論が本格化するとのことですが、国には具体的な方針を、早急に示していただく必要があると考えています。

2回目の接種から、半年で抗体量が8割減少するという研究結果も発表されています。先行して接種した医療従事者の中には、既に接種から半年が経過される方も多くなってきています。

世界的に見れば、途上国の接種も進めなければなりません。

しかしながら、デルタ株の誕生で、ブレイクスルー感染も心配される中、日々、感染のリスクにさらされている医療従事者のワクチン効果を持続させることは、医療を守るためにも非常に重要なことだと思います。

自治体として準備すべきことには全力で取り組みますので、まずは医療従事者だけでもブースター接種ができるよう、国には速やかな対応をお願いしたいと思います。

2点目は、地域の実情を踏まえた療養体制の強化についてです。

現在、臨時の医療施設、いわゆる「野戦病院」に関する話題が注目を浴びています。

本県も、万一来臨に備え、検討は行っているものの、地元の医療関係者と協議し、それよりも療養環境が優れた宿泊療養施設の充実を進めています。

具体的には、抗体カクテル療法で短期入院されていた方の退院後の受け入れを、看護師が常駐する宿泊療養施設で行うなど、医療機関と宿泊療養施設が密接に連携した、熊本スタイルの取り組みを実施することとしています。

このように、各地域の資源に応じて、様々な形の体制強化があると思っています。

国には、臨時の医療施設だけが療養体制の強化であるような発信をするのではなく、地域の実情に応じた体制強化を、偏りなく発信していただきたいと思います。